



みなみの風

坂下南小学校
学校だより
NO. 94

R7. 2. 18

ドリーム & チャレンジ！ ～あいさつ・はっぴょう・なかまとじぶん～

(文責: 校長 菅家 篤)

憲法前文の暗唱合格！

2名の6年生男子が挑戦し、見事成功しました。
難しい課題に対して、ひたむきに挑戦する子どもたちの姿には、本当に感心させられます。

困難に出あっても“あきらめない”気持ちこそが成功に導くエネルギーなのだと思います。



～植村直己（冒険家）の言葉より～

世界的に有名な「冒険家」植村直己さん（故人）が、北極圏1万2千キロを旅する中で、何度も心の中でつぶやいた言葉が「何度私はこの旅を中断しようと思ったことだろう。そのたびに、もう1日、もう1日だけ前進してみようと自分に言い聞かせた」です。そんな植村さんが、旅を終えてあることに気がきました。



「成功のために自分がしたことは何か。『たった一つのこと』をしただけではないか」 植村さんのした「たった一つのこと」とは何か。それは、「最後まであきらめなかった」ことです。植村さんの心と体には、最後まであきらめず、もう1日、もう1日とやりぬくことで手にした喜びがあらわれています。

「見えない力」が「見える力」を支えている

～ 新入学児童保護者説明会「校長あいさつ」から ～

先週の「新入学児童保護者説明会」で、保護者の皆様に次のお話をしました。

幼稚園は「遊び」を通した教育が目的でしたが、小学校では「学習」が活動の中心となります。時計が読める、ひらがなが書ける、計算ができる、などのいわゆる「見える力」も大切ですが、それ以上に大切なのが「見えない力」です。これは学力テストなどでは数値化できない力ですが、人生を豊かに生きていくうえで重要な力です。教育分野では「非認知能力」と呼ばれています。例えば、「主体性」「協調性」「思いやり」「リーダーシップ」「自己肯定感」などです。学力テストで測ることができる力が「見える力」だとしたら、それよりも大きな見えていない部分が「見えない力」です。むしろ「見えない力」が「見える力」を支えていると言えます。「見えない力」を育むために、保護者の皆様には次の二つをお願いしたいと思います。

見える力＝認知能力

見えない力＝非認知能力

一つ目は、**安心して「やってみる」ことができる環境をつくる**ということです。安心できる環境の中で、お子さんはいろいろな工夫をし、意欲や創造力が身についてきます。

二つ目は、**やってみたことを「ふりかえる」ために対話をしてあげる**ということです。公園で遊んだことを思い出して、「ボールを蹴るのがうまくなった！」や「鬼ごっここの人数が少なくてももしろくなかった」のようなものです。**大切なのは、ふりかえる内容よりも、ふりかえることそのものです。ふりかえることによって、自分を客観的に見る力や自己肯定感が育ちます。**

やってみたことを親子でふりかえる、そんな時間を大切にしてみてください。